小學農業書

乙種

卷一

文部省

375.9
M014
資料室

41298
教科書文庫
4.
610
32-1913
20000
53594

小學農業書

乙種

卷一

文部省

文部省

資料室
375.9
M014

広島大学
教
53594
図書

緒言

一。本書は、明治四十四年文部省令第二十四號に依り小學校令施行規則中改正の結果、農業科の中特に男生に授くる農事につき教授時數を增加する學校の爲に、從來の教科書に基づき教材の種類・配當・分量等を增し別に編纂したるものなり。今之を乙種と稱し從來の教科書を甲種と稱す。

二。本書は分ちて二卷とし、高等小學校第一學年第二學年に各一卷を配當す。

三。土地の情況に應じて本書記載の教材を取捨するは勿論、又本書記載の教材以外特に必要なる事項あるときは適宜之を授くべし。

大正二年三月

文部省

目錄

第一課　農業……一
第二課　稻……一
第三課　種子の良否……二
第四課　選種……三
第五課　浸種……五
第六課　種子の發芽……五
第七課　播種の時……六
第八課　整地……六
第九課　整地用農具……七
第十課　土壤の種類……十
第十一課　苗代……十一
第十二課　田植……十二
第十三課　施肥……十三
第十四課　稻の分蘖……十三
第十五課　日光……十四
第十六課　稻の植方の疎密……十五
第十七課　稻の植方の深淺……十六
第十八課　雜草の害……十八
第十九課　田の草取……十八
第二十課　稻の病虫害……十九
第二十一課　旱魃……二十一
第二十二課　稻の灌漑……二十一
第二十三課　養鯉……二十二
第二十四課　水源……二十三

第二十五課　洪水の防禦……二十三
第二十六課　茄……二十四
第二十七課　胡瓜及び南瓜……二十五
第二十八課　果菜……二十五
第二十九課　甘藷及び馬鈴薯……二十六
第三十課　澱粉製造……二十七
第三十一課　胡蘿蔔及び大根……二十八
第三十二課　根菜……二十九
第三十三課　菘類……三十
第三十四課　葉菜……三十二
第三十五課　蔬菜の病虫害……三十二
第三十六課　養雞……三十四
第三十七課　雞卵の孵化……三十六
第三十八課　育雛……三十七
第三十九課　稻の收穫……三十八
第四十課　母本の選擇……三十九
第四十一課　種子の交換……三十九
第四十二課　二毛作……四十
第四十三課　油菜……四十一
第四十四課　蘭……四十一
第四十五課　大麥……四十二
第四十六課　播種……四十三
第四十七課　土壤の水……四十四
第四十八課　土溫……四十五
第四十九課　土壤の過濕……四十五
第五十課　排水の方法……四十六

第五十一課　蒔肥……四十七
第五十二課　肥料の性質……四十八
第五十三課　麥の施肥……四十九
第五十四課　米の調製……四十九
第五十五課　米の收量……五十一
第五十六課　收穫物の賣却……五十二
第五十七課　農業簿記……五十二
第五十八課　餘業……五十五
第五十九課　森林の效用……五十五
第六十課　林樹の種類……五十七
第六十一課　造林……五十七
第六十二課　伐木……五十八
第六十三課　果樹……五十八
第六十四課　果樹の施肥……五十九
第六十五課　果樹の剪定……六十
第六十六課　果樹の整枝……六十
第六十七課　接木……六十二
第六十八課　果樹の移植……六十四
第六十九課　苗床……六十四
第七十課　促成栽培……六十五
第七十一課　農家の心得……六十六

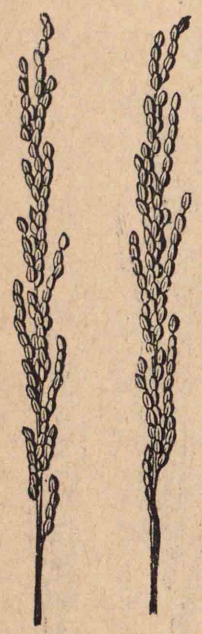
小學農業書 乙種 卷一

第一課　農業

農業は作物を栽培し、家畜を飼養し、以て衣食住に必要なるものを産出す。これ農業の大切なる所以にして、農業盛ならざれば商工業も榮ゆること能はず。

第二課　稲

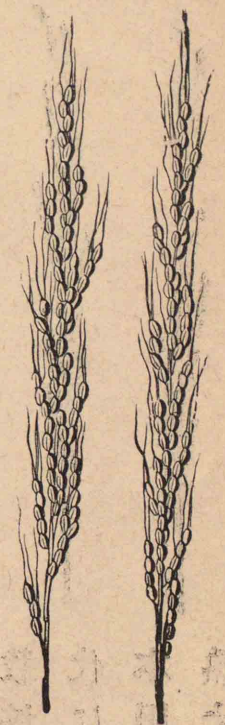
稲は我が國に於て最も大切なる作物なり。これを栽培するには春苗代にて苗を作り、夏本田に移植し、秋實熟するを待ちて刈

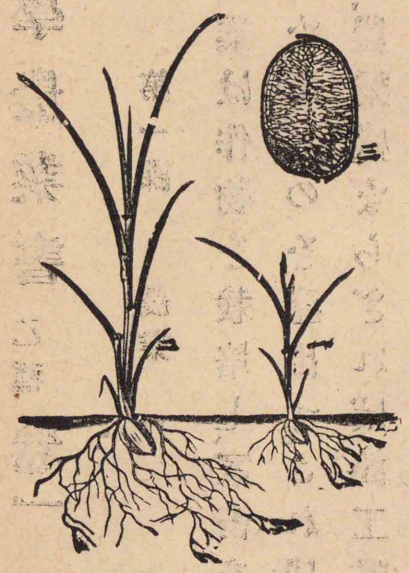


稲の品種
關取

り取るなり。稻には品種多し。粳と糯とに分ち、各早生・中生・晩生の別あり。品種により風土に適否あり、收穫に多寡あり、品質に良否あれば、農家はよく選びて最も適當なるものを採り用ふべし。

稻の品種
荒木





大小種子より生ぜる苗の比較
種子の胚及び胚乳並に

（一）小種子より生ぜる苗
（二）大種子より生ぜる苗
（三）種子を横斷し胚と胚乳とを示す

第三課　種子の良否

種子は作物

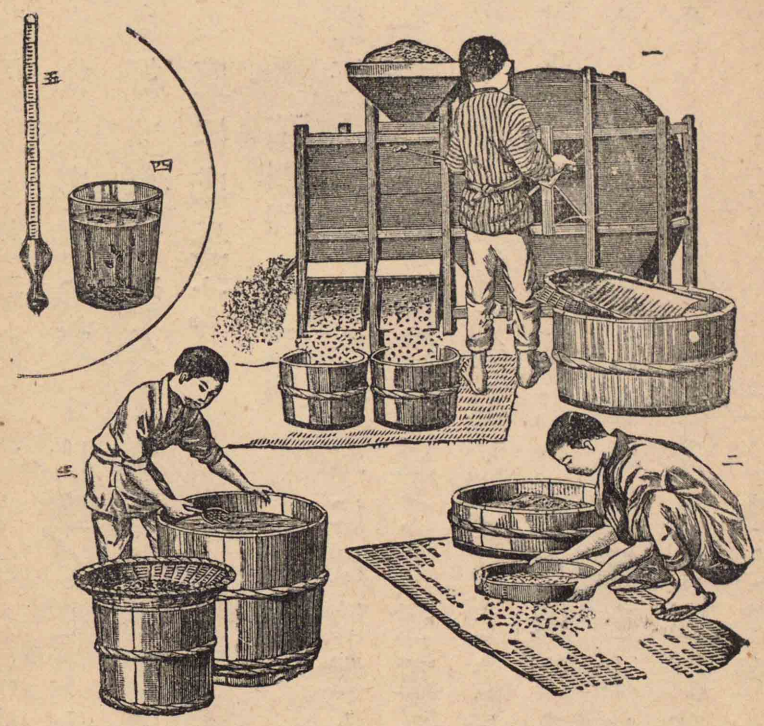
の本源なり。種子良好ならざれば良き作物を生ずることなし。良好の種子は重くして大なるものなり。種子良好なれば養分を含むこと多く、芽はこれに養はれて盛に成長す。

第四課　選種

良好なる種子を選ぶには篩選と颺扇選とあり。大小を分つには篩選を以てし、輕重を選ぶには颺扇選を以てす。これを兼ね用ふるときはその效殊に多し。

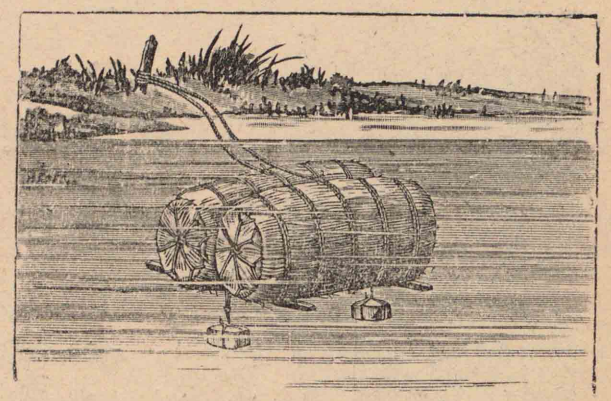
稻・麥などの選種には鹽水選法を用ふるが便なり。鹽水を造るには食鹽の適量を水に溶かすべし。食鹽の代りに尋常の苦鹽汁また固形苦鹽汁を用ふるも宜し。小麥・裸麥の爲には濃き苦鹽汁を用ふべし。

選種



一、颺扇選
二、篩選
三、鹽水選
四、鹽水選に適當なる鹽水の濃度を示したるところ
五、比重計

浸種



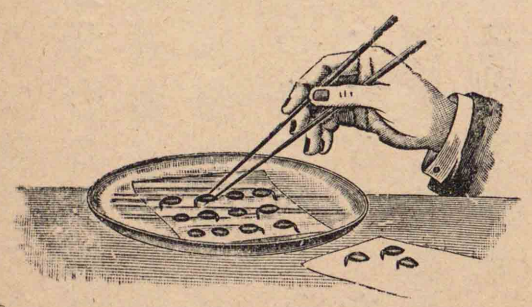
第五課　浸種

稻の種子は播き下す前に數日間、川・池・桶水などに浸すが常なり。川・池の場合には種子は俵に入れ置くべし。豫め浸し置けば一齊に且速に發芽するものなり。

第六課　種子の發芽

種子發芽の多少を知らんと欲せば之を皿の上に並べて適溫の所に

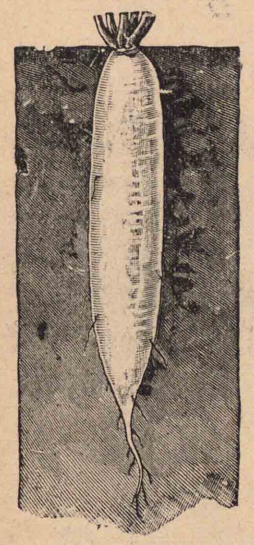
種子發芽の比較



置き、絶えず濕を與へて發芽せしむ。かくて發芽の數によりて之が歩合を算出すべし。發芽歩合の少きは不良なる種子なり。

第七課　播種の時

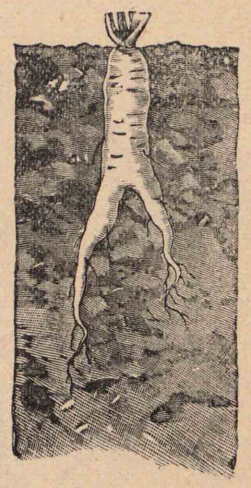
種子を播き下すには適當なる溫度の時に於てすべし。溫度適當ならざれば發芽・成長共に後るるの虞あるものなり。適當なる溫度は作物によりて異なり。



整地したる場所の大根

第八課　整地

播種の前には丁寧に整地して土を軟にすべし。土堅ければ根延び繁らず。根延び繁らざれば養分を取



整地せざる場所の大根

ること多からざるが故に、莖葉また繁茂するを得ず。

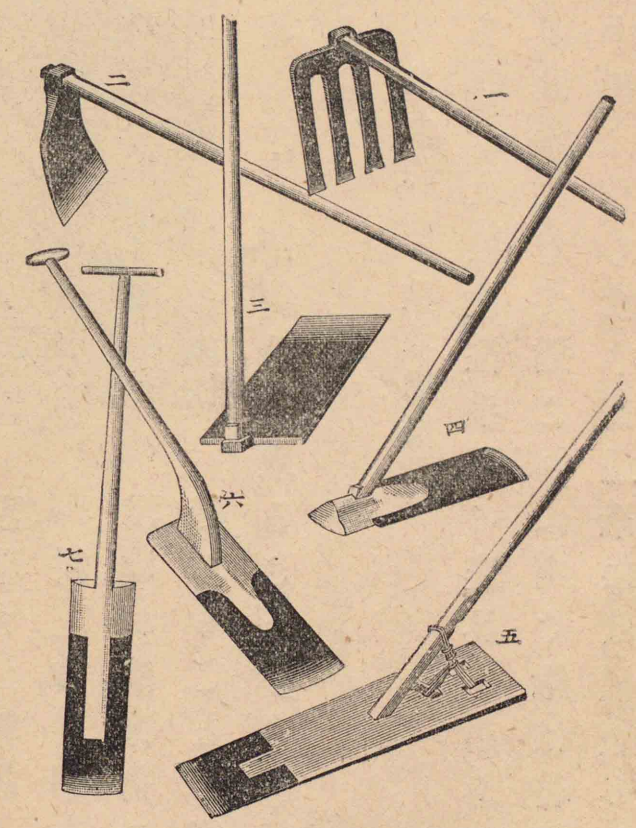
耕し方は丁寧なりとも淺ければ作物の根は深く延ぶることを得ず。根深く延び繁らざれば養分を取ること少く、作物よく繁茂せざるなり。

第九課　整地用農具

地を起すには往往手用の農具を用ふ、就中最も普通なるは鍬にして鋤これに次ぐ。鍬は普通鍬・金鍬・唐鍬・備中鍬に分ち、就中普通鍬には種類多し。其の構造は鑱・風呂及び柄の三部より成る。鋤には江州鋤・京鋤・

鑄鍬等あり。

農具



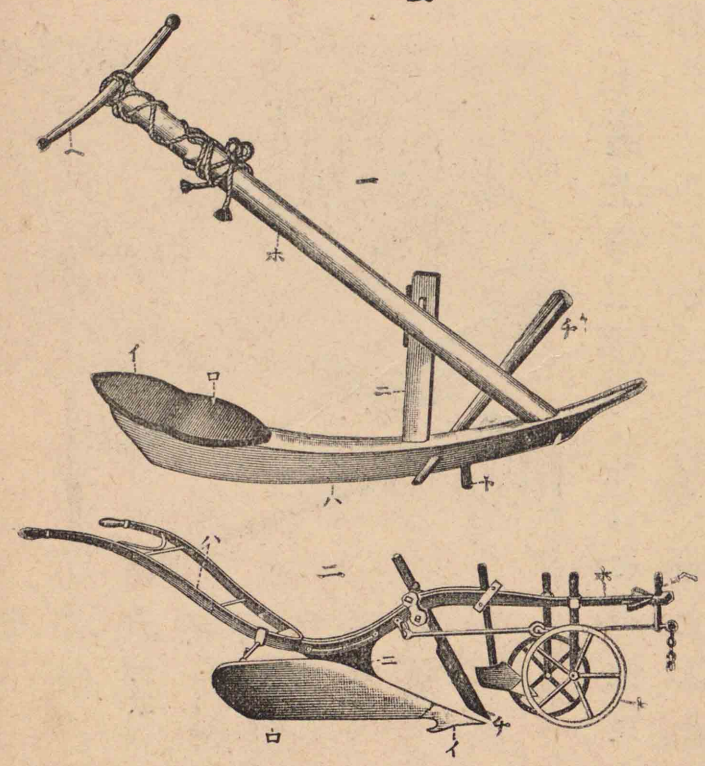
一、備中鍬
二、唐鍬
三、金鍬
四、普通鍬
五、鑄鍬
六、江州鋤
七、京鋤

牛馬の力を借りて地を起すには犂を用ふ。犂には

種類少からず。其の構造中最も主なる部分は鑱と鏵となり。犂を用ふるは手用農具を用ふるに比して仕事捗取るものなり。

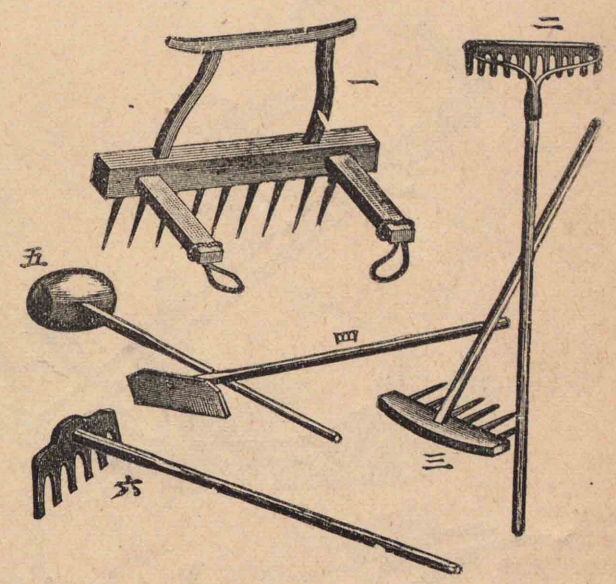
土塊を碎く農具には畜力に依るものに馬鍬あり、手用の

農具



(一) 抱持立犂　(二) 西洋犂

農具



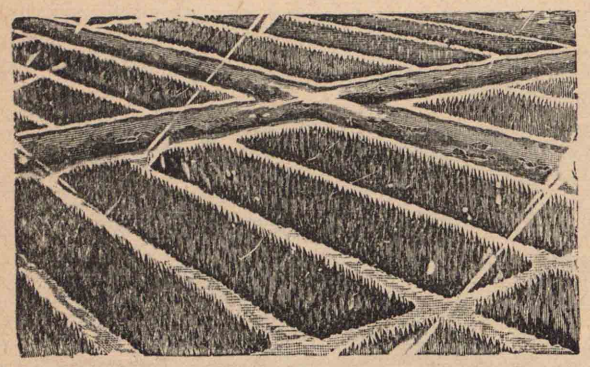
一、馬鍬
二、レーキ
三、木ざらひ
四、杁
五、木斫
六、金ざらひ

ものに杁・レーキ・木ざらひ・金ざらひ・木斫等あり。

第十課　土壌の種類

土壌は土粒の大小によりて砂土・埴土(また粘土・壌土の三種とし、各その性質を異にす。砂土は耕し易けれども乾き易く、埴土はこれに反す。壌土は中間にありて最も良き土壌なり。

苗代



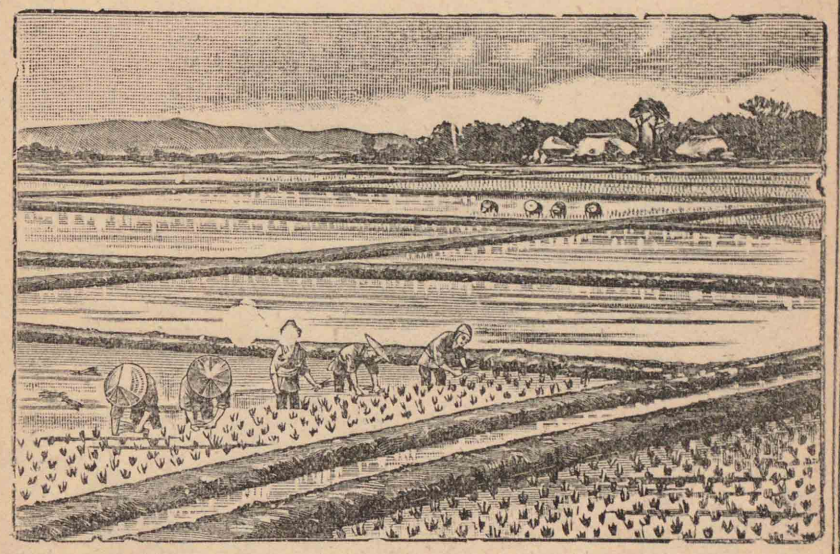
凡そ土壌は耕し易ければ輕しといひ、之に反すれば重しといふ。砂土には輕砂土、埴土には重粘土、壌土には砂壌土(また輕壌土・粘壌土あり。

第十一課　苗代

苗代は稍淺く耕して肥料を施し、水を灌ぎ、よく耙き均すべし。かくて水の澄むを待ちて斑なく之に播種す。

凡そ苗は强健なるを要す。されば苗代には水掛り日當り風通し善き地を選び、肥料の分量と水の掛引とに注意すべし。

田植



第十二課　田植

田植をなすには先づ整地するを要す。整地の方法は地方によりて大に異なれども、要は田を起して水を灌ぎ、馬鍬を以てよく耕し、これに肥料を施し置くにあり。

かくて苗代より苗を抜き、其の根を洗ひ、數本を一株として深過ぎざるやう注意して丁寧に

植付くべし。凡そ田植には風強く冷なる日を忌むものなり。

第十三課　施肥

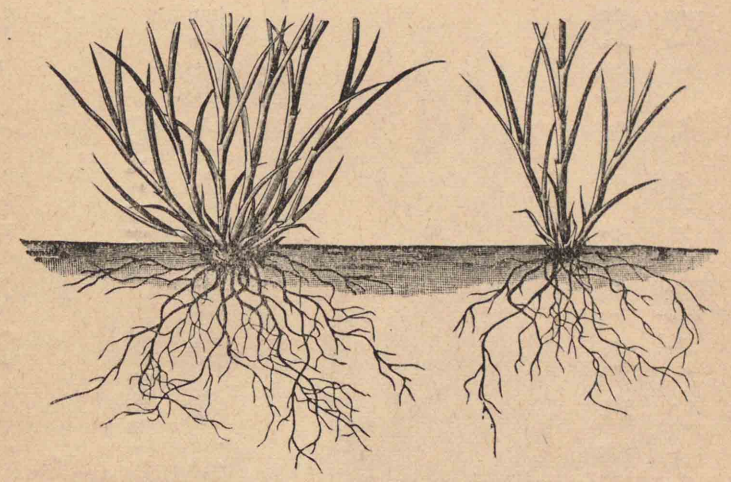
肥料は土壤養分の不足を補はんがために施すものなり。これを施すときは根よく延び繁りて多く養分を吸收す。

施肥の有無と根の發育比較

根よく繁れば莖及び葉またよく繁茂し結實隨ひて多し。されば農家は收穫を多く得んが爲に肥料を多く施すなり。

第十四課　稻の分蘖

稻の分蘖

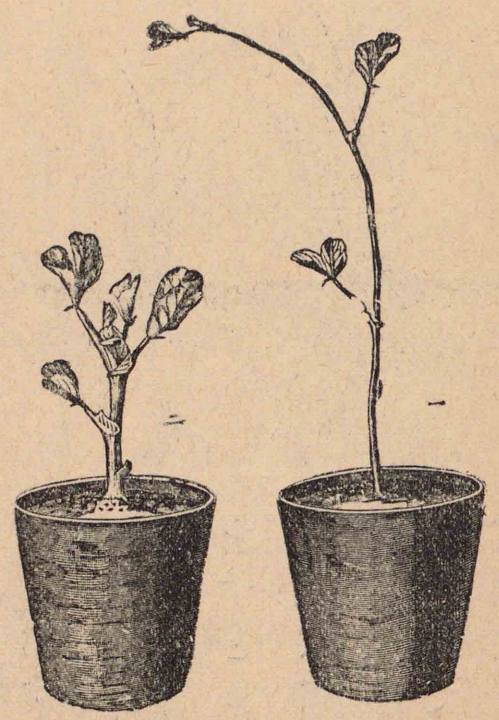


稻は地面に接する莖節より分蘖す。分蘖の多少は品種によりて異なり。又施肥量多ければ分蘖隨ひて盛なるを常とす。

第十五課　日光

日光のよく當ることは作物の成育に最も大切なることなり。すべて植物は暗所に於ては色白く形細長くして質軟なるものなり。

暗所明所の植物成育比較



一、暗所成育　二、明所成育

故に作物を堅く強健に育つるには日當りをよくするを以て肝要とす。されば密播・密植をなし、又は田畑の周圍に樹木を繁らするの不可なることは勿論なり。

第十六課　稻の植方の疎密

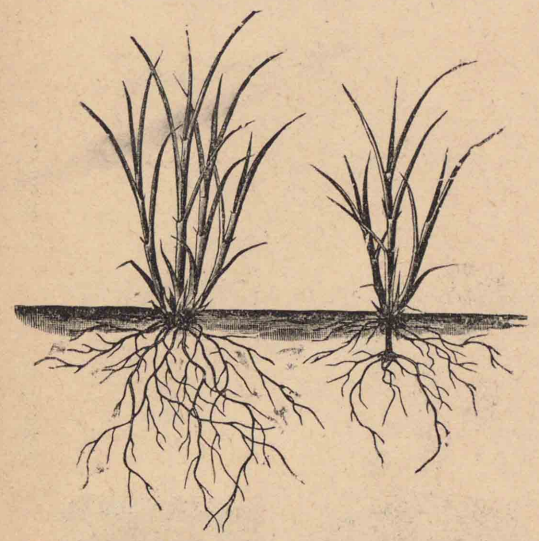
稻を植うるには疎密に注意するを肝要とす。肥地は分蘖多ければ疎に植うべく、瘠地はこれに反する

ゆゑ密に植うべし。

一株に採るべき苗數は殊に品種によりて差あるべし。晩稻は分蘖多きを常とするゆゑ之を少くし、早稻はこれに反するゆゑ之を多くするを常とす。

第十七課　稻の植方の深淺

植方の深淺



稻は深植を忌む。深植をなすときは、其の固有の根はよく發育せず、地面に近き所より別に根の生ずるを待ちて成長するが故に、其の繁茂爲に後るるなり。

雜草

一、ひるがほ
二、ひるむしろ
三、ひえ
四、すぎな
五、えのころぐさ
六、たがらし

第十八課　雜草の害

雜草には、ひえ・ひるむしろ・えのころぐさ・たがらし・ひるがほ・すぎなどその種類甚だ多くして、いづれも作物の成育に害あり。

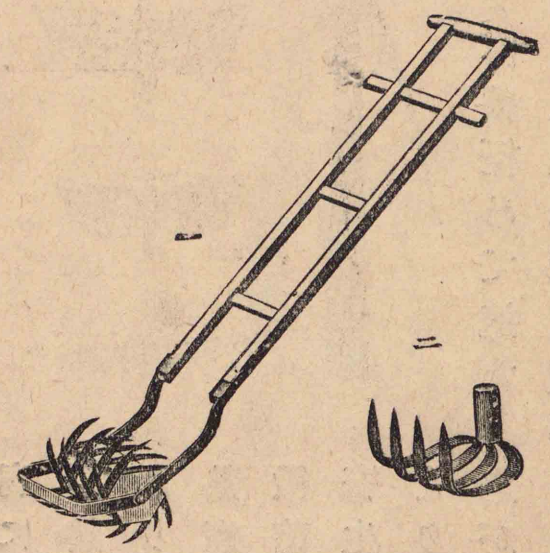
雜草は强壯にしていづれの地にもよく滋殖し、作物の取るべき養分を奪ひ、其の繁るに及ぶときは日光を遮るの害あるものなり。

第十九課　田の草取

田の草取は苗の根著より穗孕前まで、暖なる晴天を選びて數回これを行ひ、一番草には雁爪・田打車などを用ひ、二番草よりは手を以てするを良しとす。

草取はまた土を軟げて根の延び繁るを助くるの

田の草取具

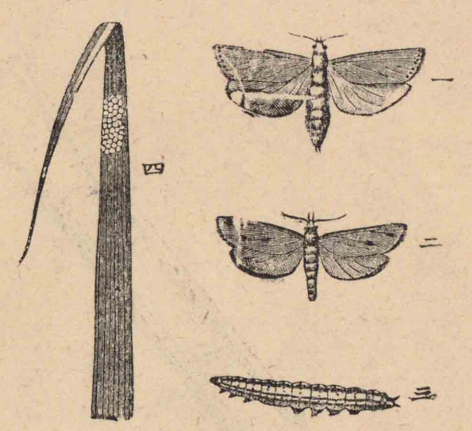


一、田打車　二、雁爪

效あり。雁爪は深く起すに適し、田打車は之に劣れども、何れも二番草以後に用ふるときは多くは根を害するの虞あり。又止め草は後れざるやう注意すべし。

第二十課　稻の病虫害

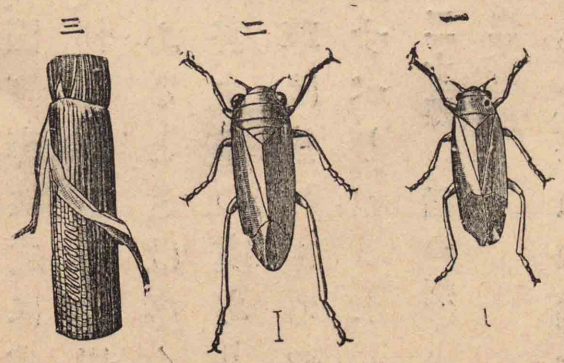
稻の害虫には螟虫・浮塵子等數多あり。螟虫の驅除には卵塊採集・枯莖拔・白穗拔等の諸法あり。浮塵子の驅除には油殺法最も有效なり。而して點火誘殺法は



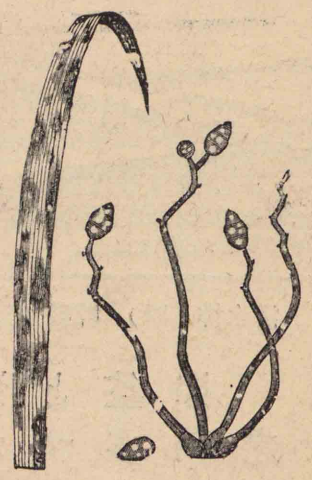
一、成虫の雌
二、成虫の雄
三、幼虫
四、卵塊

主として螟虫の驅除に用ひらる。

稲の病には稲熱病あり。稲熱病は黴菌の寄生によりて起り、傳播極めて速なり。之が豫防には過濕・過肥・密植等を避け、稲を健全に育つるを



一、つまぐろよこばひの雄
二、つまぐろよこばひの雌
三、卵



胞子を着生せる擔子梗

稲熱病に罹りし稲葉

遂に枯死するに至る。此の害は稲・棉・芋等の如く水を多く要する作物ほど著しし。

第二十一課　稲の灌漑

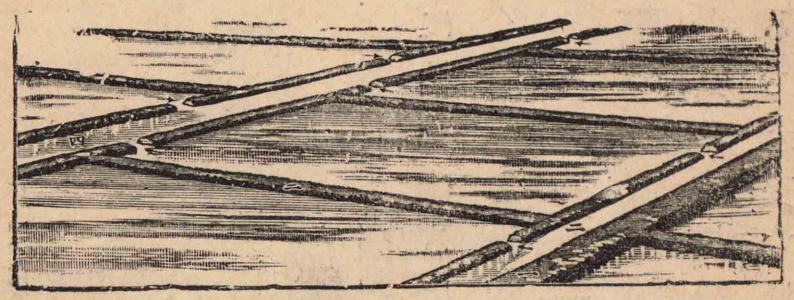
稲の灌漑は植付前より始め實入りの頃に至りて止む。其の成長の中頃氣候極めて暑き間は深く灌水するも差支なけれども、其の前後は淺きに利あり。

肝要とす。

第二十一課　旱魃

作物は成長中絶えず水分を要す。故に旱天永く續きて土中の水乏しくなるときは、作物次第に衰へて

灌　漑



（一）道路　（二）灌漑溝　（三）畦畔　（四）排水溝

用水には河又は溜池の水などを用ひ、灌漑溝を經て之を田面に引入るるを常とす。凡そ用水は冷なるを忌むものなり。

第二十三課　養鯉

鯉を飼養するには泥底にして狹からざる池溝に於てするを常とす。また灌漑中稻田に養ひて利益多きことあり。餌としては蠶蛹・搾粕・豆粕・糠などを與ふ。

之を蕃殖せしむるには別に小池を設けて親鯉を入れ、柳根、棕櫚

の毛、水藻等を投じて之に產卵せしむ。卵孵化すれば之にうで卵・水蚤等を與へ、漸く成長して四五分に至りし頃之を育養池に移すなり。

第二十四課　水源

雨雪の山に下りたるもの岩間に滲入し、貯へられて水源となる。水源を涵養して河川の水を多くせんと欲せば山林を保護し、裸山には植林するをよしとす。

第二十五課　洪水の防禦

我が國に於ては暴雨多く霖雨も屢〻あるが故に洪水多し。就中土砂多く山より流れ來りて河底高くなるときは此の處多きを加ふるなり。

凡そ山嶽より土砂の流れ去るを扞止せんには森林に賴るをよしとす。森林なければ土砂崩れ易きが故なり。

第二十六課　茄

茄は夏秋の間日常の副食物として用ひらる。其の品種に千成・山茄・丸茄・巾著・水茄等あり。二三月頃苗床を設けて播種し、苗を仕立てて本圃に移植す。

移植をなすには先づよく本圃を耕し、適當の距離を隔てて堆肥・下肥・油粕等を施し、土を覆ひ、其の上に苗を一本づつ植付け、後數回中耕を行ひ、多く肥料を施すべし。これを收穫するには一顆づつ切り取るべし。

第二十七課　胡瓜及び南瓜

胡瓜には節成・白胡瓜・青胡瓜・八人枕等の品種あり。苗を仕立てて移植する等その栽培法は略茄に準じ、支柱を立てて蔓を纏はしめ摘心を行ふものとす。

南瓜には縮緬・菊座・西京等の品種あり。之が栽培法は胡瓜に準ずるも支柱を建てず、藁を敷きて其の上に蔓を匐はしむるを常とす。

第二十八課　果菜

果菜は夏季栽培せらるる作物にして、其の果實は生の儘、若しくは漬け或は煮て、日常の食料に供せらる。果菜中西瓜・甜瓜・越瓜等は直ちに本圃に播種し、苺は分株して植付くるを常とし、其の他は大抵苗を仕

立てて本圃に移植す。

果菜を栽培するには屢、中耕・除草を行ひ、肥料を多く施し、大抵摘芽を行ひ、胡瓜・蕃茄等の如く支柱を與ふるものと、南瓜・西瓜等の如く地上に藁を敷きて蔓を匐はしむるものとあり。之が收穫は適度に成熟せるものを選びて切り取るなり。

第二十九課　甘藷及び馬鈴薯

甘藷は食用に供し、又澱粉を製し、酒精を作るに用ふ。川越・下總・高須・四十日・ボケ等品種甚だ多く、色に赤・薄赤・白等の別あり。甘味に強弱あり。質に脆きと否とあり。高溫の地を好み、甚だ霜を忌む。

之を栽培するには三月頃苗床に苗を仕立てて之

を本圃に移植し、中耕・蔓返等を行ふ。高溫の地方にては砂土を除くの外多く施肥せざれども、溫度低き地方にては移植の際堆肥・糠等の肥料を稍〻多く施すを常とす。

馬鈴薯にもアーリーローズ其の他種種の品種あり。性稍〻寒き地を好み、其の用途は甘藷に類す。四月頃種薯を本圃に植ゑ後強き芽一二本を殘して他を除き、中耕を行ひ、開花の頃に至りて土寄をなすを常とす。

第三十課　澱粉製造

澱粉は多く甘藷・馬鈴薯等にて製す。之を製するにはよく薯を洗ひて水を加へながら摩り潰し、篩を通

して桶に流し込むべし。澱粉桶底に沈むに及びて上澄を去り、更に水を加へ、よくかき廻して上澄を去る。之を反覆すること數回の後澱粉を取り出し、日光にて十分乾燥せしむるなり。

第三十一課　胡蘿蔔及び大根

胡蘿蔔には瀧の川・金時・時無等の品種あり。六七月圃地を深く丁寧に耕し、肥料を施して播種し、極めて薄く土を被ひて蹈み付け、更に藁などを被ひ置くなり。成長するに隨ひて間引を行ひ肥料を施すべし。

大根は日常の副食物として重要なるものなり。其の品種甚だ多く、大別して時無・二年子・夏大根及び秋大根となし、又根の大小に隨ひて細根・大根の二とす。

中にも大根の秋大根最も主なるものにして練馬・宮重・方領・聖護院・櫻島等之に屬す。

秋大根を栽培するには、八九月頃土壤を深く且丁寧に耕し、肥料を施して播種し、後間引を行ひ、數回肥料を施し土寄をなすべし。

第三十二課　根菜

根菜は人畜の食物として貴重せらるる作物にして澱粉に富むものあり。澱粉に富むものは往往澱粉・アルコール等の製造に供せらる。根菜には寒地を好むものと暖地を好むものとあれども、概ね我が國到る處に栽培せられ、輕鬆にして肥沃なる土壤に適す。蓮・慈姑等は特に水田に栽培せらる。

根菜を栽培するには、丁寧に整地してよく腐熟せる堆肥を施し、之に種を播き、若しくは苗を植付け、成長するに及びて稀薄なる液肥を施し、中耕・除草・土寄をなし、適期に至りて掘り或は抜き取るなり。

第三十三課　菘類

菘類も亦日常の副食物として汎く栽培せられ、其の品種甚だ多し。中にも三河島・白菜・山東菜・體菜等は秋栽培し、小松菜・京菜・芥菜等は冬春の間に栽培する主なるものなり。

菘類の栽培は略〻大根に準ずるも深耕することなく、數回多量の液肥を施す。其の越冬するものには防寒法を行ふことあり。

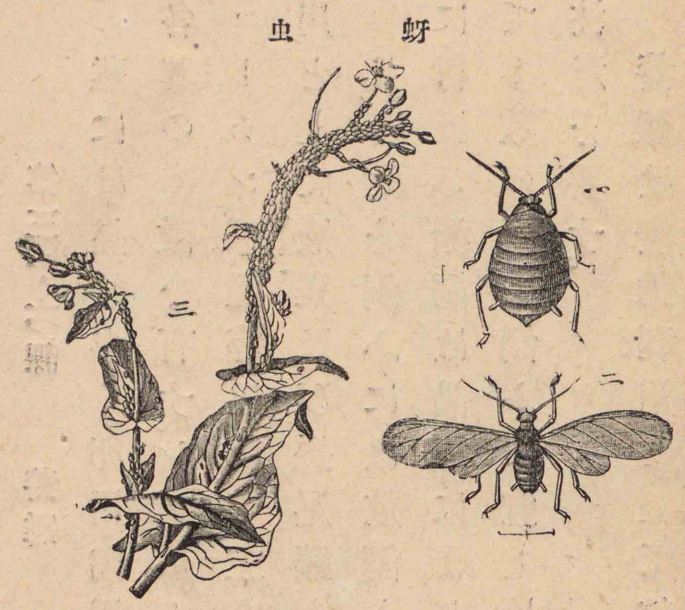
第三十四課　葉菜

葉菜は多量の水分を含みて質軟なり。四時殆ど絶ゆることなく栽培せられ、煮物又は漬物となして日常の副食物に供せらる。葉菜は種類多く、大抵我が國到る處に栽培せらる。概ね砂質壌土に適し、根菜の如く深く耕すを要せず。

葉菜を栽培するには、種類によりて播種し、若しくは苗を仕立てて移植す。後成長するに隨ひて屢〻肥料を施し、中耕をなし、或は特に軟白法を行ふ。其の越冬するものには防寒法を施すことあり。

第三十五課　蔬菜の病虫害

蔬菜の害虫は其の種類多く、中にも蚜虫は其の害



（一）無翅の雌虫　（二）有翅の雌虫
（三）蚜虫の寄生したる所

大なり。蚜虫は蕃殖甚だ盛にして蔬菜の嫩き葉又は莖に寄生し、其の養液を吸收す。之を驅除するには石油乳劑・除虫菊石鹼合劑・煙草石鹼合劑等を用ふるを可とす。

蔬菜の病亦多く、瓜類のベト病など最も普通なり。ベト病は黴菌の寄生に基づき、其の害甚だしく、動もすれば枯死に至ら

しむ。之を防ぐの法は數回ボルドー液を撒布するにあり。

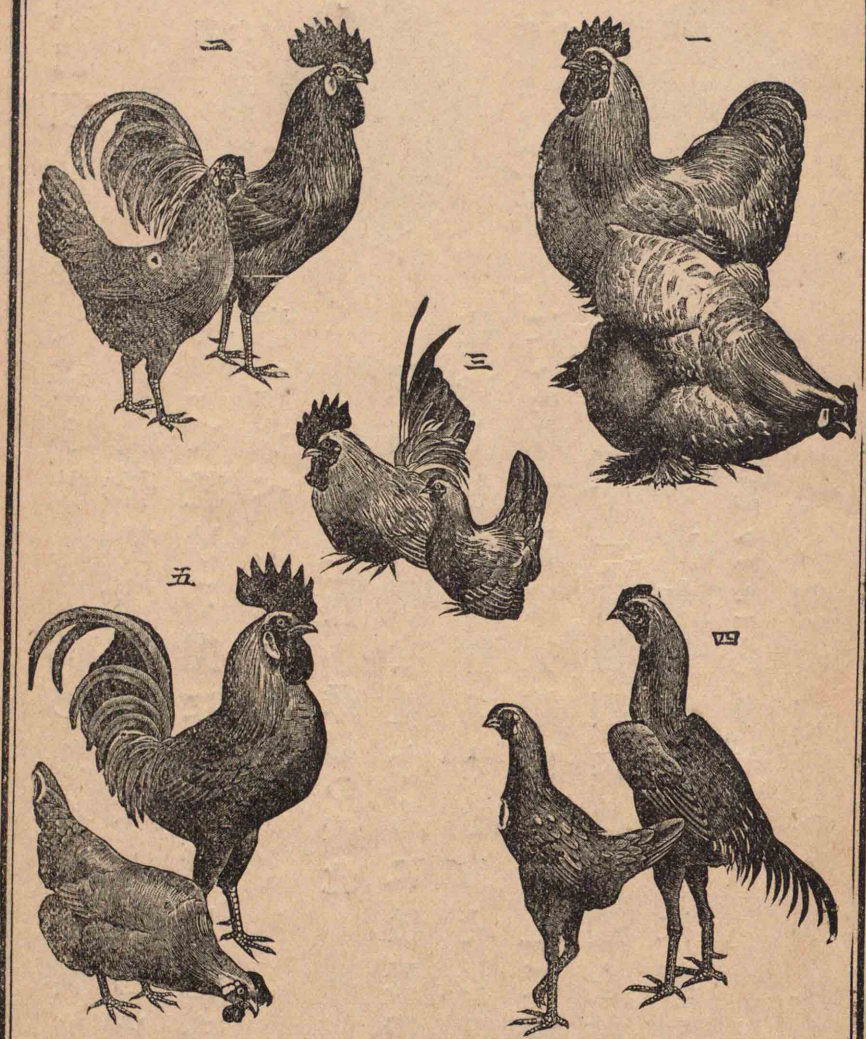
第三十六課　養雞

雞には品種多く卵用・肉用・卵肉兼用等の別ありて各其の特徴を有す。レグホーン・アンダルシャン・ブラマ・コーチン・軍雞等は其の主なるものなり。其の他愛翫用として矮雞及び長尾雞あり。

凡そ雞を飼ふには放飼と柵飼とあり。放飼は普通に行はる。柵飼は品種によりて用ふべく、狹き土地にて多數の雞を飼ふに宜しけれども飼養に特別なる注意を要す。

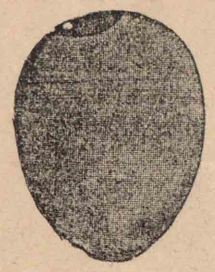
養雞は廢物利用として效多きものなり。雞は穀類・

雞の品種

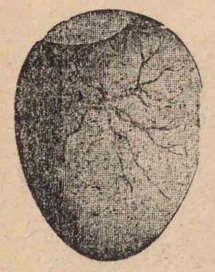


（一）コーチン　（二）レグホーン　（三）矮雞
（四）軍雞　（五）アンダルシャン

菜類・肉類などにて養ひ、特に柵飼の場合には碎きたる貝殻・骨粉等を與ふべし。雞舍は暖くして乾ける處に設け、常に之を清潔にすべし。



卵外より透し見たる新鮮卵



卵外より透し見たる孵化中の卵

第三十七課　雞卵の孵化

雞卵を孵化せしむるには母雞に抱かしむべし。然るときはその體溫によりて胚は次第に發育して雛となり、二十一日目頃には卵殻を破りて出づるなり。母雞の代りに孵卵器を用ふることあり。

孵化用の卵は成るべく新しきを

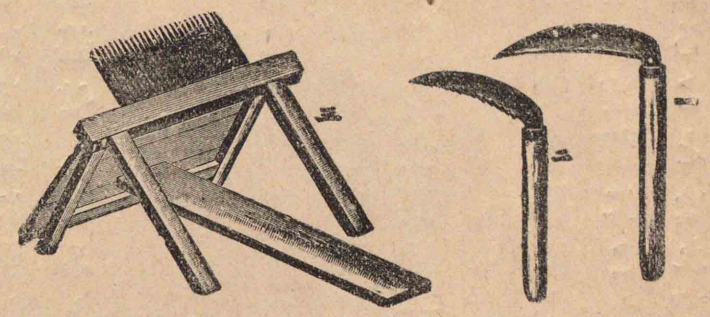
選び、二週間を經たるものは用ふべからず。これを貯ふるには横になし置き、動搖せしむべからず。甚だしく動搖せしむるときは生機を失ふの恐あるものなり。

第三十八課　育雛

雛には最初卵の煮たるもの又は燒きたるものを與へ、數日後に至りて穀類・菜類・虫類などを與ふべし。凡そ雛の食餌は一日數回少量づつ與ふるを良しとす。

雛は鼬・猫等に害せられ、又は寒濕に侵され易きものなれば懇にこれを保護すべし。然れども運動は大切なることなれば舍外に遊ばしむることを怠るべ

稲の收穫具



(一) 鎌　(二) 鋸鎌　(三) 稲扱

からず。

第三十九課　稲の收穫

稲は其の穂黄色となり實硬くならば刈り取るべし。時期甚だしく過ぐるときは米質を損し、零落・鳥害等によりて收量もまた減ずるの虞あるものなり。

稲を刈り取るには鎌を用ふ。鎌には普通鎌と鋸鎌とあり。刈り取れば稲架に掛け若しくは田面に臥せてよく干し、藁の十分に乾ける後、籾を扱き落すなり。

第四十課　母本の選擇

種子を採るにはまづ良き母本を選ばざるべからず。凡そ品種にはそれぞれ特徴あり。良き母本とは此の特徴を備へ居るものなり。

良き母本を選ぶの必要なるは良き母本にあらざれば良き作物を生ずることなければなり。採りたる種子の中に悪しき母本のもの交り居れば品種次第に不良となるものなり。

第四十一課　種子の交換

作物によりては悪變することあり。また同じ地に久しく作るがために地に厭きて勢力衰ふることあり。かくの如き場合には種子の交換を行ふを良しと

す。

惡變を防ぐには母本を選擇するは勿論、時には種子を本場に仰ぐを良しとす。地に厭くを防ぐには氣候稍〻寒く土質稍〻劣れる所より種子を採るべし。

氣候甚だしく異なる所より採りたる種子は不良の結果を生ずることあり。かくの如き場合には母本の選擇によりてこれを風土に馴すことを試みるべし。

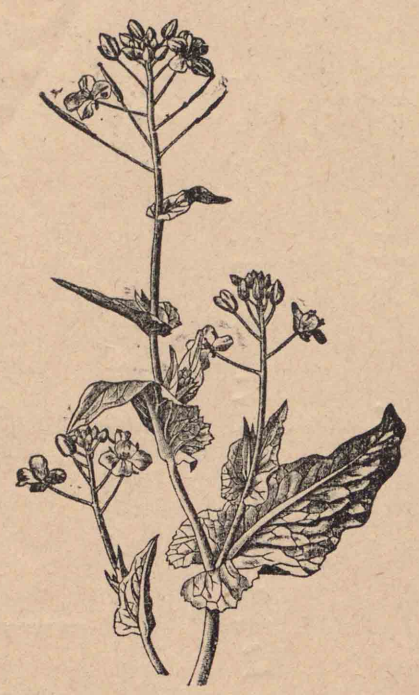
第四十二課　二毛作

甚だしく寒冷ならざる地方にては稻田に於ても麥・油菜・蘭・豌豆・紫雲英・苜蓿等の冬作物を植ゑて二毛作をなすを得べし。凡そ二毛作をなすは土地を利用

すること多くして利益あることなり。

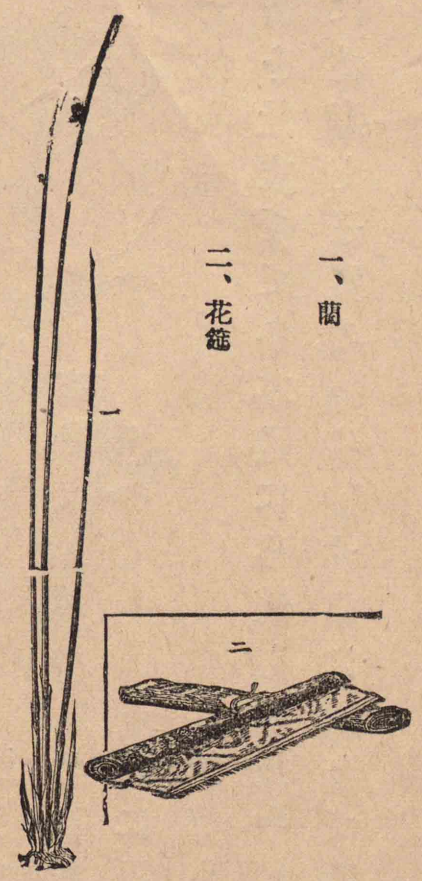
第四十三課　油菜

油菜



油菜は子實を搾りて油を製するに用ふ。其の品種には蕪・粟入・朝鮮等あり。多くは秋苗を仕立てて冬本圃に移植し、成長中は中耕・施肥等に注意し、子實の過半熟するに至りて收穫するなり。

藺は春夏の候苗を仕立てて十一月頃本田に移植す。常に水を灌ぎ、多量の肥料を施し、翌年七月頃刈り取るなり。刈りとりしものは泥水に浸して後よく乾かし畳表・花筵等に製す。



一、藺

二、花筵

第四十五課　大麥

大麥は稻に次ぎて重要なる作物にして人畜の食用又は製造の原料に供せらる。之を大別して大麥及び裸麥となし、大麥に穗揃・ゴルデンメロン、裸麥に青・白・豊稔等其の他品種多し。

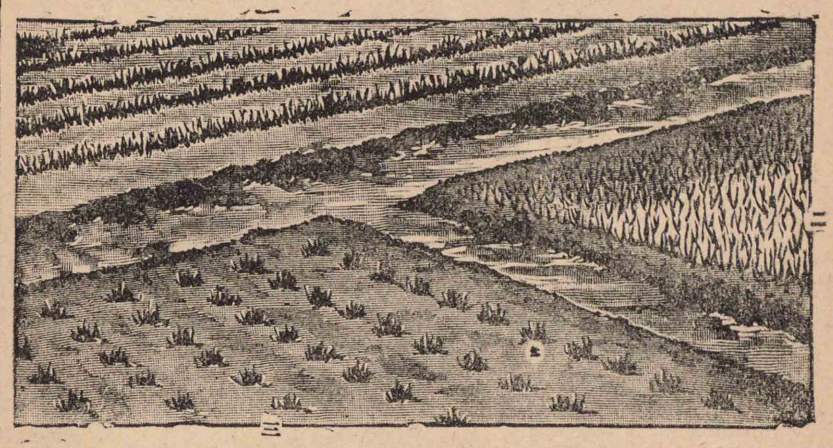
大麥は氣候寒冷の地に適し、裸麥は殊に暖地に宜し。土質は砂質壤土最も可なり。之が整地には平作と畦作との別あり。畦作は濕氣多き地に適し、平作は乾燥せる地に宜し。

大麥を栽培するには秋末整地の際に肥料を施し條播又は摘播す。成長の間中耕・施肥等を行ひ、初夏に至りて收穫するなり。

第四十六課　播種

播種には點播・條播・撒播の式あり。作物・風土等によ

播種式



（一）條播　（二）撒播　（三）點播

りて夫夫利害相等しからず。宜しく場合に應じて其の適當なるものを採り用ふべし。

第四十七課　土壤の水

土壤の水は雨雪と地下水とに基づく。土壤は保水力と毛管引力とを有す。保水力は雨雪の水を保ちて其の滲透し去るを防ぎ、毛管引力は地下水を引き上げて之を表土に供給す。土

壤は又蒸發性と透水性とを有し、過量の水は自ら除かる。但し久しく雨雪なく地下水亦低きときは之が爲に水の供給に不足を生ずることあり。以上四箇の作用宜しきを得て土壤始めて肥沃なるを得べし。

第四十八課　土溫

土壤の熱は主として太陽に基づき其の溫度は傾斜の方向、水分の多少、色の濃淡等によりて相等しからず。而して四季晝夜によりて高低あるものなり。

第四十九課　土壤の過濕

土壤過濕なるときは溫度低くして作物の成長爲に宜しからず。かくの如き地は春は溫まること遲く、秋は早く冷になりて土地の利用に不利多く、耕作の

不便亦少からざるものなり。

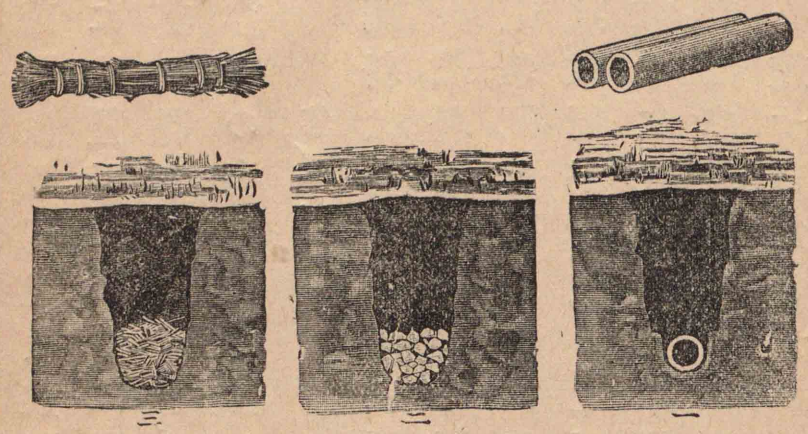
又土壤に停滯水多ければ土中の空氣缺乏して作物根の呼吸妨げられ、畑作物の如きは爲に枯死に至るを免れず。過濕なる土壤に於てはまた作物の結實後れ、成熟惡しくして品質不良となるの虞あり。

第五十課　排水の方法

過濕なる土壤に於ては排水を行ふを肝要とす。排水の法には明渠と暗渠とあり。明渠は簡單なる溝渠にして、暗渠は之に礫・麁朶・丸太・竹束・土管などを埋めて土を蔽へるものなり。

暗渠は明渠に比し排水の量多からずして之を造るの勞費多けれども、地積を損することなく、又肥土

排水の方法



（一）土管排水　（二）礫排水　（三）麁朶排水

を流し去るの虞少し。故に耕地内には暗渠を用ひ、明渠は之を集めて河川に通ずるの用に供するを良しとす。

第五十一課　蒔肥

凡そ初生の苗は速に成長せしむるを良しとするものなれば、これに吸收し易き養分を給するの要あり。蒔肥にはこの目的を以て施すもの少からず。

蒔肥は肌肥又は敷肥の法によるものなり。之を施すには種子に直ちに觸るることなきやう土壤を以て其の間を隔つべし。これ種子に直ちに觸るるときは多少の害あるを常とすればなり。

第五十二課　肥料の性質

肥料は其の效用に遲速あり。故に之を速效肥料と遲效肥料とに分つ。下肥・硫酸アンモニヤ等は前者に屬し、堆肥・糠・骨粉等は後者に屬す。

速效肥料は主として成長期の短き作物に適し、之を施すには少量宛數回に分ち施すを良しとす。遲效肥料は成長期の長きものに用ふるを利とし、一回に之を施すを常とす。

第五十三課　麥の施肥

麥の蒔肥には多く遲效肥料を用ひて基肥となし、補肥として速效肥料を數回に分ち施す。基肥には速效肥料を加へて初生の苗の成長を助くることあり。

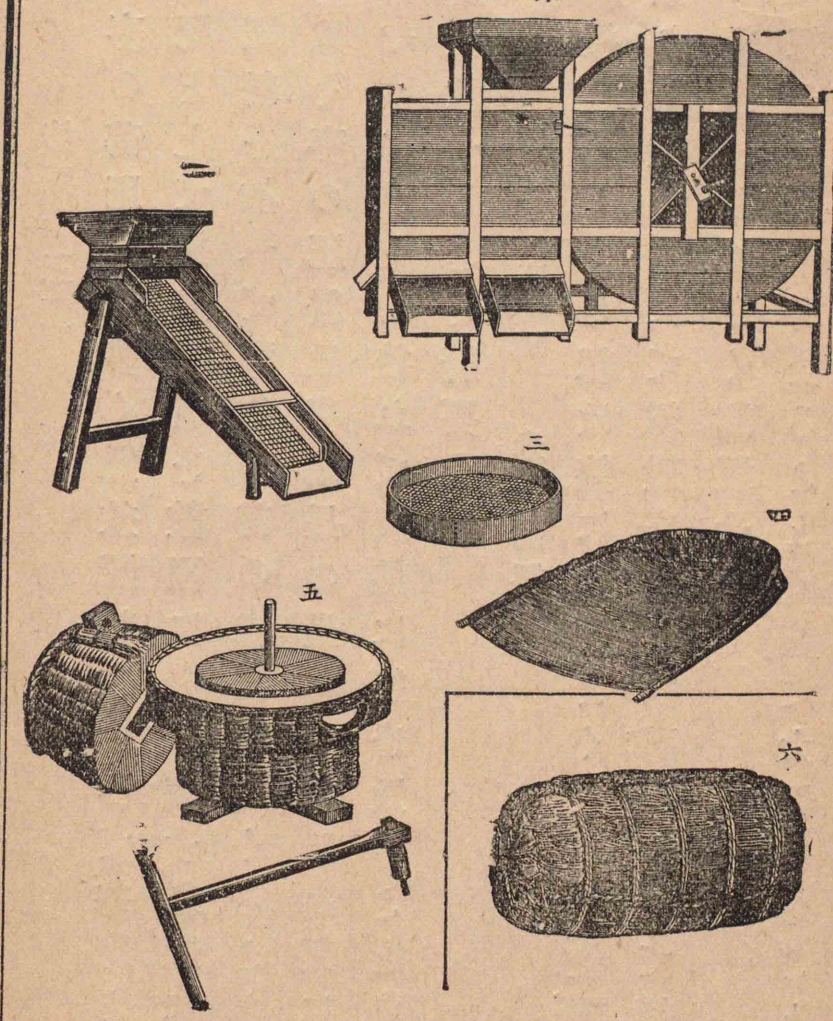
凡そ麥の肥料は春成長の最も盛なる時期に效あるやうに施し、時後れて成熟に害を及すことなきやう注意すること肝要なり。

第五十四課　米の調製

扱き落したる籾は筵に擴げ、よく乾かし、後碾にて摺り、箕・颺扇等にて籾殼を去り、篩・萬石篭にて摺殘りの籾を去りてよく調製すべし。

籾の乾燥十分なることは甚だ大切なることなり。

米の調製具



一、颺扇
二、萬石篩
三、篩
四、箕
五、轟
六、俵

乾燥不十分なるときは籾摺困難にして碎米・傷米等を生ずるのみならず、米質不良となるものなり。

調製せし米は俵又は叺に入れて貯藏す。販賣用のものは殊に其の俵裝を良くして漏米なきやうにすべし。俵裝には二重俵を用ひ、内俵は特に古藁を以てし、結繩及び兩端の繩掛を丁寧にすべし。

第五十五課　米の收量

米の收量は調製の後枡にて檢し、これを一段歩當りに計算して何石何斗又は何俵何分となすを常とす。場合によりては坪刈の法を用ひて之を測ることあり。

米の收量は風土によりて異なるのみならず、選種、

栽培の方法、肥料の用量等また大なる關係を有し、氣候の如何によりても豐凶の差を生ずるものなり。

第五十六課　收穫物の賣却

農家は收穫の多きを求むること勿論なれども、また品質に注意し調製にも力むるを肝要とす。品質よく調製丁寧なるものは價貴ければなり。

凡そ物の價は時によりて高下あるものなれば農家は常に相場の變動に注意し、其の收穫物は最も高價なる時に賣るやう心掛くるを肝要とす。

第五十七課　農業簿記

農家は家計簿と營業簿とを備ふべし。營業簿は金錢出納簿・物品受拂簿等とし、支出と收入とに分ち、日

日金錢の出納、物品の受拂等を明瞭正確に記載すべし。これ收益の勘定をなすに必要なればなり。

收益の勘定をなすには左の如き大目に分つことを得べし。

收入の部

一米何俵	何百何拾圓何拾錢	
一卵何箇	何圓何拾錢	
一繭何貫	何百何拾圓何拾錢	
一縄何把	何圓何拾錢	
一………	……	
一………	……	
合計		何百何拾何圓何拾錢

支出の部

一租税　何拾圓何拾錢
一鍬何挺　何圓何拾錢
一糠何俵　何圓何拾錢
一人夫何人　何圓何拾錢
一修繕費　何拾圓何拾錢
一……
一……
合計　何百何拾何圓何拾錢
差引　何百何拾何圓何拾錢

農家は又日誌を作りて日日の出來事を記入するの要あり。故に取引多からざるものは金錢の出納、物

品の受拂をも便宜之に記入し、之に基づきて收益の勘定をなすも可なり。

第五十八課　餘業

凡そ農業は季節によりて仕事に繁閑の差多し。故に閑時には便宜餘業を營みて收入の增加を圖るやう力むるを肝要とす。

農家の餘業としては機織・蓆織・草履造・草鞋造・繩綯・麥稈眞田編・經木細工・切干製造・澱粉製造・木竹細工等種種あり。農家は場合に應じて適當なるものを採用すべし。

第五十九課　森林の效用

森林には左の如き效用あり。

一、水源を涵養す。
二、土砂を扞止す。
三、洪水を防禦す。
四、木材・薪炭を産す。
五、有益なる鳥獸・菌類・樟腦・樹脂等の副産物を生ず。
六、風致を美にす。
七、氣候を和ぐ。
八、雨量を増加す。
九、風害を防ぐ。

森林はかくの如く效用多きものなれば、力めてこれを保護して濫伐を禁ぜざるべからず。

第六十課　林樹の種類

林樹中杉・扁柏(檜)・松等は針葉樹にして用材に適し、松はまた薪炭にも用ひらる。欅・樟・櫧等は用材に適し、櫟・楢等は專ら薪炭用となすものにして、何れも濶葉樹に屬す。

林樹はまた陰樹と陽樹とに分つ。扁柏・羅漢柏・花柏等は陰樹にして、落葉松・赤松・櫧・楢・杉等は陽樹に屬し、楡・赤楊樹・シデ・ソロ等は其の中間にあり。

第六十一課　造林

造林には天然造林と人工造林とあり。人工造林は勞費多く天然造林は勞費少し。土地の狀況、林樹の種類、造林の目的等によりて其の何れかを選ぶべし。

人工造林に於ては苗圃に苗木を仕立て一二回床替をなしたる後植付け、成長の間下草刈・間伐・枝打等の手入を行ふべし。

第六十二課　伐木

伐木は蘖を利用するものと然らざるものとによりて其の法を異にす。前者は秋落葉後又は春發芽前に於て丁寧に伐るを良しとし、後者は冬季に於てするを常とす。

第六十三課　果樹

果樹には梨・苹果・柑橘・桃・柿・葡萄等其の種類多し。

梨は稍〻冷涼の氣候を好み、濕地にも堪ふれども、殊に排水佳良なる砂質壤土に適す。接木によりて繁殖

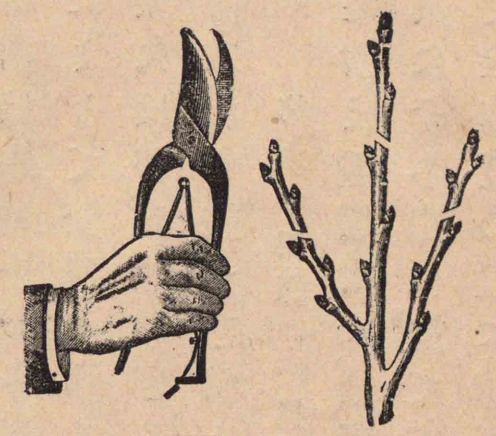
し、多くは棚の上に枝を配置し、時に不用の枝を除き、果實に袋を被ひて害虫を防ぐ。苹果は殊に寒地に適し、其の手入の法は梨に似たり。

柑橘は寒地を忌み砂礫に富める壤土に適す。接木法によりて繁殖し、多く肥料を與へ下枝を除き、採果の際には蔕を除かざるやうに切り取るべし。冬間には防寒法を施すを常とす。

第六十四課　果樹の施肥

果樹は種類・樹齢、結實の多少等によりて肥料の量を異にす。冬間に於て寒肥を施すを常とし、場合によりては春夏の候に補肥として速效肥料を用ふることあり。

第六十五課　果樹の剪定

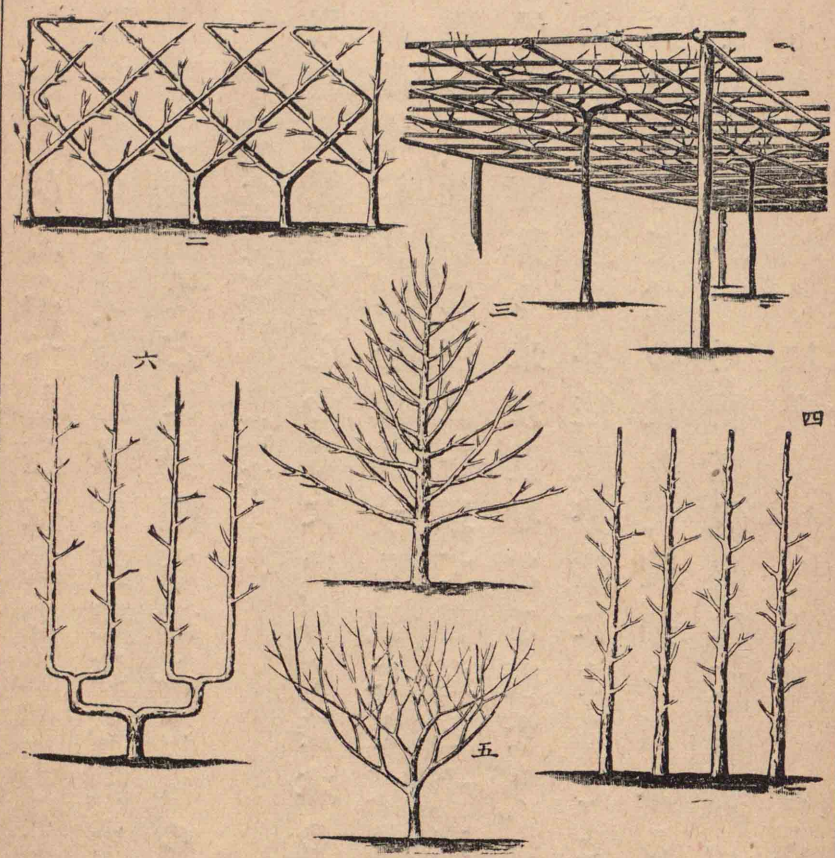


果樹の剪定

果樹は剪定を行ふを常とす。剪定は冬と夏とに行ふ。冬の剪定は不用の枝を除きて樹姿を整ふるを目的とし、夏の剪定は專ら枝の徒長を抑ふるを目的とす。孰れも結實を促すに必要なる作業なり。

第六十六課　果樹の整枝

果樹の整枝には棚形・カンテラーブル形・ダイヤモンド形・コルドン形・杯形・圓錐形等の方式あり。果樹の種類と氣候・土質、整枝の目的等とによりて適當なる



果樹の整枝

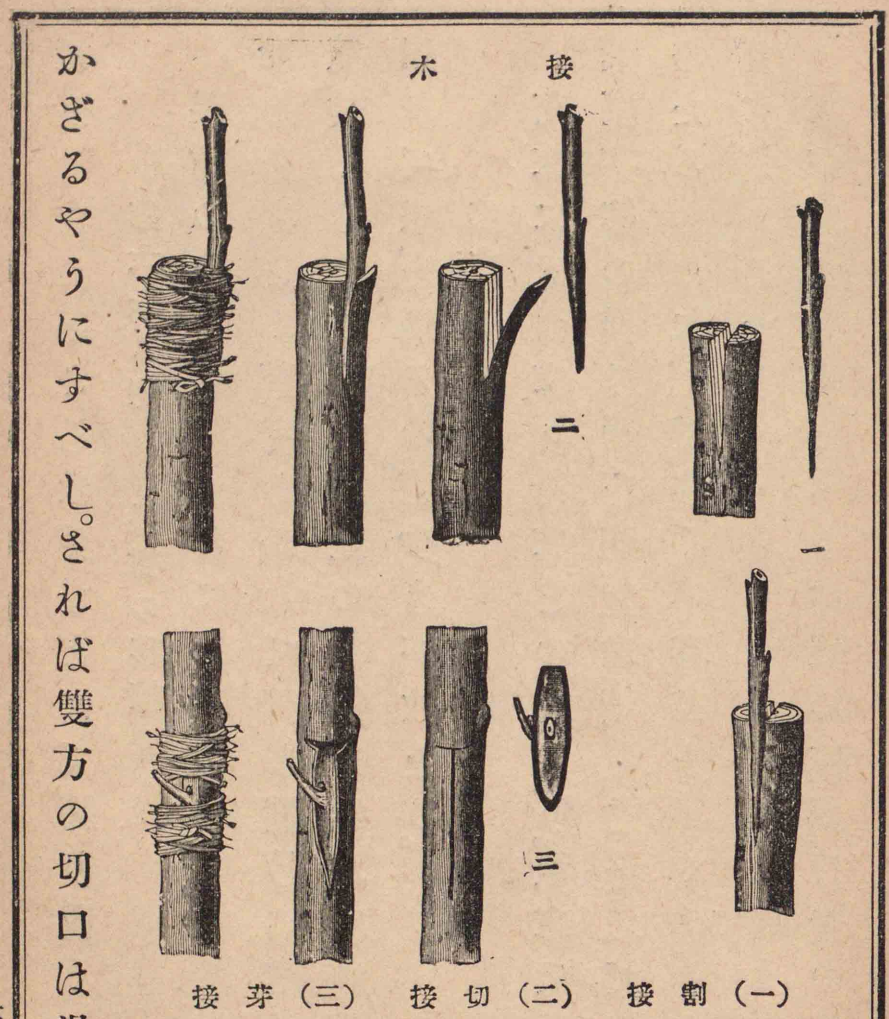
一、棚形
二、ダイヤモンド形
三、圓錐形
四、コルドン形
五、杯形
六、カンテラーブル形

ものを選び用ふべし。整枝其の宜しきを得るときは良果を多く結び、採果・驅虫・剪定等亦便なり。又整枝するときは庭園などに美觀を添ふるものなり。

第六十七課　接木

果樹を繁殖せしむるには、多く接木の法を用ふ。接木は砧木に接穗を嫁接する法にして、切接・割接など種類多く、就中切接法を以て普通とす。之を行ふの時期は通常春芽の未だ發せざる頃なり。

接木は枝接の外往往芽接によることあり。此の法は接穗として枝の代りに腋芽を用ふるものにして、夏より秋にかけて便宜何時にても行ふことを得れども、樹皮を剝ぐに差支なき限り寧ろ遲き時期を良



しとす。

凡そ接木をなすには、接穗と砧木との成長部を密に相接せしめて動かざるやうにすべし。されば雙方の切口は滑に削り、

相接したるところは藁などにて縛り置くべし。

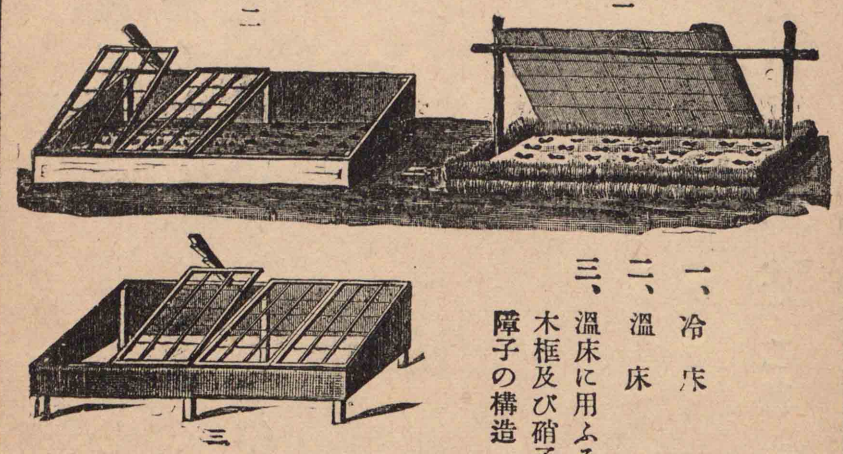
第六十八課　果樹の移植

果樹の苗を移植するには晩秋若しくは早春、根と幹とを程よく剪定し、かねて掘り置ける溝又は穴に植付くるなり。移植に此の季節を選ぶは成長休止し居りて根を切るの害少きが故なり。

第六十九課　苗床

苗床には溫床と冷床との別あり。溫床は馬糞・藁・落葉・塵芥等の發熱物を適宜堆積し、之を以て溫度を高めたるものにして、多く早春苗を早く作り出さんが爲に用ふるなり。

苗床にては成るべく空氣の流通、日光の照射、肥料



一、冷床
二、溫床
三、溫床に用ふる木框及び硝子障子の構造

の施用に注意し、苗の徒長を防ぎ之を健全に成長せしむること肝要なり。

第七十課　促成栽培

茄・胡瓜・菜豆・苺等は促成栽培を行ひて其の生産物を季節に先だちて市場に出すことあり。之を行ふには大抵溫床を用ひ、其の手入は略〻苗の仕立と同樣にし、瓜類には特に人工媒助をなすべし。

第七十一課　農家の心得

農家はよく勤儉にして且學理を應用することに心掛くべし。かくの如くにして始めて收益を多くし家富み榮ゆることを得べし。

小學農業書　乙種　卷一　終

大正二年五月十四日印刷
大正二年五月十七日發行

小學農業書乙種卷一奥附
定價金七錢
臨時定價金拾壹錢

著作權者　文部省

東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地
發行兼印刷者　大日本圖書株式會社
右代表者
專務取締役　宮川保全

東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地
大日本圖書株式會社

發賣所
各府縣下特約販賣所

不許複製
(二五九〇)